

TOPICS

SUIJI 国内サービスマーケティング 2022 小豆島 8/16~8/25

コロナ禍で2年間休止していたSUIJI国内サービスマーケティングが関係者の方々の協力のもとで再開し、10日間のプログラムを実施しました。香川大学生、インドネシアの大学生(IPB、UGM、UNHAS)が小豆島中山地区を対象としてディスカッションや棚田を中心

とした調査、地域住民との懇談を行いました。最終日には活動総括のオンライン発表会・討論会を英語で実施し、大いに盛り上がりました。参加した香川大学生からは、「海外の人と関わる貴重な体験となり、とても良かった!」という声もありました。



創造工学部学生が第一回香川県青年版国民栄誉賞を受賞 8/27

造形・メディアデザインコース4年生の三谷なずなさんが、公益社団法人日本青年会議所香川ブロック協議会の第一回香川県青年版国民栄誉賞を受賞しました。香川県青年版国民栄誉賞とは、社会に持続的なインパクトを与えることのできる可能性を秘めた傑

出した若者を発掘し、更なる活躍を期待して社会全体で応援することを目的とした褒賞事業とのことで、香川大学アートプロジェクト集団GAME CHANGER代表として、三谷なずなさんが理事長賞を受賞しました。



創発科学研究科社会人大学院生と学長との座談会開催 8/30

創発科学研究科に入学した社会人大学院生7名と寛 善行学長との座談会を開催しました。参加した社会人大学院生から、働く女性の大学院進学が容易になる仕組みづくりや夜間開講を増やしてほしい等、社会人ならではの視点から提案がなされ、活発な意見交

換が行われました。参加した大学院生にとっては、学長と直接意見交換ができた貴重な経験となり、大学院教学センターにとっては、社会人大学院生の生の声が聞くことができ、大いに有意義な座談会となりました。



法学部卒業生の論文が懸賞論文に入賞 9/6

2022年3月に卒業した法学部生の論文が、国際法学会主催「第9回小田滋賞」において奨励賞を受賞し、国際法学会2022年度(第125年次)研究大会の総会において授賞式が執り行われました。受賞論文は、「被害者の救済と主権免除否定論—代替手段の不存在を理由とする免除

否定論の妥当性の考察—」と題するものです。同論文は卒業論文をもとに内容を圧縮する形で加筆修正したものとなっております。現在は「第10回小田滋賞」の募集が行われていますので、国際法、国際私法、国際政治・外交史の分野を専攻する学生は、奮ってご応募ください。



香川大学フォトコンテスト2022 part 1 作品募集中!

Instagramの投稿として応募するだけでなく、メール・郵送・持ち込み・応募専用フォームからも応募できるようになりました。香川大学学生・卒業生はもちろん、学外の方を含め、どなたでもご参加いただけます。



←応募方法など詳細はこちらの特設ページよりご確認ください。



KADAIGEST 2022 9



香川大学 空手道部

香川大学空手道部では、沖縄の那覇を発祥とする「古流剛柔流空手」を学んでいます。突きや蹴りに加え、投げ技や関節技などもあることから接近戦を主とする流派となります。組手の際は「寸止め」ではありませんが、顔面への突きは除くといったように安全面に配慮したルールが設けられています。また、「氣息」という腹式呼吸を行うことにより健康にも効果があるとされています。

空手道部は香川大学では月木の週2回稽古を行っています。これが物足りない部員は日曜日に師範が指導されている「丸亀道場」にて、より充実した稽古に参加しています。

私が空手道部に入ったのは一年生のとき

でしたが、それまで格闘技の経験は一切ないことに加え、高校時代は帰宅部であり、運動経験も殆どありませんでした。他の部員も多くは大学入学時点で格闘技初心者です。私自身まだまだ未熟ですが、香川大学・丸亀道場ともにいつも楽しく稽古に励んでいます。

空手は身一つでできるものであるため、道着を除きお金がかかることは殆どなく、空手道部では部費もゼロ円となっています。「今からでも格闘技を始めたい!!」「格闘技には興味があるけれどもジムとかに行くのは金銭的に辛い」と思う方は、ぜひ一度稽古の様子を覗きにいられてはいかがでしょうか。空手道部一同、お待ちしております!

活動場所 ・香川大学幸町キャンパス 武道場 2階
活動時間 ・月、木曜日 18:30~20:00
部員数 ・7名
Twitter ・@kadai_karate
ホームページ www.ed.kagawa-u.ac.jp/~nobuyuki/karate



法学部3年 宗像 毅明
兵庫県立龍野高等学校出身



KSDs おもしろワクワクサイエンス展オンライン

体験を通してサイエンスの面白さを子どもたちに伝える



「KSDGs おもしろワクワクサイエンス展オンライン」は幼児・児童・生徒とその保護者を対象として、サイエンスに興味のある児童生徒の健全な育成をサポートする活動として毎年開催しています。初めて開催した時からこのサイエンス展では、化学を中心にサイエンス全般に関する体験実験を実施し、サイエンスの重要性・面白さ・不思議さ、そして様々な「もの」に触れる喜びを伝えてきました。

今年は合計14のブースでサイエンスを体験してもらうことができました。磁石に引き寄せられる性質を持つ磁性イオン液体をつくる実験、ムラサキキャベツ液に様々な試料を加えることで色の変化を見る実験などを実施しました。昨年と今年は香川大学での対面形式とZoomを用いたオンライン形式を併用して開催しました。私は、このようなICT機器を活用したイベント開催は初めてで、機器の利用にも慣れていないわけではなかったため、準備は様々な人に助けられました。

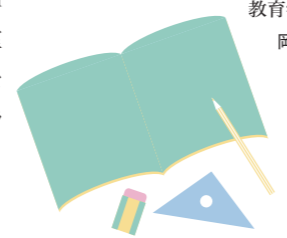
開催当日「匂いの記憶と特徴」というブースで関わった子供たちが印象に残っています。実験内容は、果実と近い匂いを持つ5つのエステルを用意し、子供たちに何の匂いか当ててもらおうという内容でした。最初はピンとこなかった子供も、ヒントを出すことでどの匂いか当てられて満足している様子が見られました。また保護者の人たちも同じ匂いを嗅いで、子供と一緒に考えてもらいました。子供が先に何の匂いか気づいて、保護者に教えて正解したときの様子は喜びに満ちていて、開催した私たちも嬉しい気持ちになりました。

また、オンラインで参加してくれた子供たちも多く、磁性イオン液体をつくる実験では、HPに掲載しているお手本動画ではなく、教室に来てくれた子供たちが実験している様子をZoomで配信することにより、教室とオンラ

インの作業の進行度をなるべく同じにして、双方を一体化する工夫をしました。しかし、やはり進行度の違いは生じてしまったので、次回からは対面・オンライン双方の子供たちが同時に楽しめるサイエンス展の開催に努めたいです。

今回の体験から、将来オンラインで授業をしたりイベントを開催したりするときに有用なスキルや、困難に立ち向かう力が得られたと感じています。今後は、このサイエンス展のことを県内だけでなく、全国の子供たちに知ってもらうことで、サイエンスの重要性・面白さ・不思議さについて将来を担う子供たちに伝えていきたいです。

教育学部 4年 清川 真
岡山県立芳泉高等学校出身



匂いクイズに挑戦！（写真左側が清川）



香川大学とブルネイ・ダルサラーム大学の共同研究である「食育プログラム」もブース出展し、日本と同じ「お箸文化」を持つブルネイ国と中継を繋いで交流しました。中継のアーカイブ配信はこちらのQRコードからご覧いただけます。

